

【議案第 28 号】

令和 7 年度浜田市一般会計予算

私は、議案第 28 号令和 7 年度浜田市一般会計予算の原案に反対し、修正案に賛成の立場から討論します。

私は、郷土資料館の建替え、石見神楽の振興、そして駅周辺エリアのにぎわい創出、いずれも必要なものだと考えています。だからこそ丁寧な議論を求めています。予算決算委員会や自由討議を通じた議会におけるこれまでの議論を振り返れば、原案賛成の立場でも、それに対する不安や疑問の声を述べられた議員は多くいらっしゃいました。それぞれが持つ不安や疑問を解消するために自由討議を提案し、実施し、合意形成に努めようともいたしました。が、残念ながら原案の妥当性について納得するには至りませんでした。

まず当該事業については、これまで行われてきた各検討委員会の提言内容を十分に反映しているとは言い難い状況です。石見神楽振興における拠点の必要性については今後検討が行われていくものであり、全容は現在まだ明らかになっていません。そのため、三桜酒造跡地に神楽関連施設を含めた公共施設建設を検討する事業と同時並行で進めるという執行部の進め方には、今後の議論をどれほど受け止めてもらえるのか不安は払拭できないままです。加えて、神楽に携わらない市民の方々にも理解を求めながら、慎重に進めていくことが必要ではないでしょうか。だからこそ、教育委員会が来年度予算に計上している新たな検討委員会設置の予算には賛成の立場です。そこでしっかり議論をしていただき、その見解を待って次の段階へ私たち議会においても議論を進めるべきと考えています。

今年度行われた浜田駅周辺エリアのにぎわい創出に向けた現状分析及び調査事業の報告書では、石見神楽保存伝承施設や浜田市郷土資料館の体験学習施設はそれほど多くの集客は望めない可能性もあり、にぎわい創出にはつながりにくい指摘されています。今年度開かれた石見神楽伝承内容検討専門委員会を傍聴する中では、資料の収蔵スペースの確保が相当量必要であるとのご意見をお持ちの方もおられました。4 千平米という限られた敷地に同機能を担保しながら、果たしてにぎわい創出につながる機能が十分に実装できるのでしょうか。神楽施設の必要な機能を議論する前に、それに関する建物の議論を進めることは論理的に成立しません。

また、当該地域周辺の将来像及びにぎわい創出の具体的なイメージは示されておらず、そのような中では施設整備ありきの議論が先行してしまいます。事実、予算説明書では、この施設を核とした周辺エリアの整備計画をつくることになっています。これは本来、エリア全体のビジョンを示した上でその中に施設を位置づけるべきであり、

令和7年3月定例会議 三浦 大紀議員 反対討論

順序が逆になっています。まちづくりは、エリアの目指す姿を描いた上で、それに合った施設を検討するものです。施設ありきで計画を進めることは、持続可能な発展を妨げる可能性も生じます。これは多くの市民にとっても不安要素ではないでしょうか。

予算決算委員会における市長のご答弁では、まずは郷土資料館と神楽関連施設の建設が第一であり、三桜酒造跡地の活用、つまりにぎわい創出はその次だということでした。郷土資料館の建替えは確かに長年の懸案事項ではありますが、その解決を急ぐあまりどのようなまちをつくっていくのかという基本的な考え方が歪められることになってはいけません。

思い出してください。三桜酒造跡地は、市がにぎわい創出を目的に土地開発公社に対して購入依頼をした場所です。当該施設を建設するために購入するものではありません。これは、多くの議員に同意いただける見解のはずです。市長は、この場所に決めたわけではないと繰り返されていますが、であればなぜ施設の機能や必要性の議論が十分になされないまま、この場所を前提とした原案が出されているのでしょうか。もし本当に決めていないのであれば、複数の選択肢を示したたたき台をもとに、オープンな議論をすることが必要ではありませんか。例えば、機能ごとに最適な場所を比較する議論を議会でも行ってはどうでしょう。議論にたたき台は必要ですが、その作られ方、示され方は再考されるべきです。

この間、多くの市民の方々からご意見をいただきました。議会が市長の考えに待ったをかけることに異議を唱える方もおられました。しかし、本来議会とは様々な意見があってしかるべき場所であり、互いに耳を傾けながら最善の策を見いだそうと努力する場ではありませんか。原案に賛成することが前提ではなく、議会として主体的に議論し、最善策を見いだしていくことが健全な姿勢ではないでしょうか。そして、私たちの議会は通年会期です。私たちはいつでも、より良い形で再提案を受けることができます。拙速な判断よりも、適切な計画と市民の声を反映することが何より重要ではないでしょうか。私は、自分の正しさを貫くことよりも、人の意見に耳を傾ける優しさをもって政策判断をすべきという信念を持って議会活動に臨んでいます。これほどまでに議会において意見が分かれ、市民の間にも多くの不安や疑問がある中で不安材料を残したまま進めること、つまり原案に賛成することが本当に正しい進め方なのでしょうか。これまでの事業提案の過程で、議会や市民に対して執行部の説明は十分だったのでしょうか。この先の進め方、そして将来像が、我々議会や市民に見えているのでしょうか。ぜひ各議員には問うていただきたいと思います。

繰り返します。郷土資料館も早期対応が必要です。石見神楽の振興も必要です。駅周辺エリアのにぎわい創出も必要です。これらはいずれも浜田市の未来を左右する重要な事業です。だからこそ、今この時点で拙速ではなく、市民とともに慎重に進められ

令和7年3月定例会議 三浦 大紀議員 反対討論

ることが求められています。修正案を通すことで、郷土資料館の建替えがより悪くなるのでしょうか。むしろ市民の意見を反映し、より良いものをつくるチャンスになるのではないのでしょうか。修正案を通すことで、石見神楽の振興が停滞するのでしょうか。むしろ拙速に決めることこそ、将来の石見神楽振興の可能性を狭めるのではないのでしょうか。修正案を通すことで、駅周辺のにぎわいが失われるのでしょうか。むしろ適切な計画を立てることで、真ににぎわいを生む場となる可能性が広がるのではないのでしょうか。本当にそれぞれのことを推し進める気持ちがあるのなら、より良い形に仕上げていこうと考えるのが自然ではありませんか。議会の賛否が大きく分かれ、原案を修正することで執行部のトーンダウンを懸念するご指摘もありましたが、議会の見解を受けて真摯に向き合い、これらの課題を乗り越えて理解を得ていこうと努める姿勢が望まれるのではないのでしょうか。

市長は3年前、郷土資料館の問題に対しては一旦立ち止まるとおっしゃいました。立ち止まることが目的ではなく、立ち止まった上でどう進められるのか。まさに今私たち議会が問われているのではないのでしょうか。市民の声や専門家からの意見は、このたびの原案に十分かつ丁寧に拾い上げられているのか、いまだに疑問が残ります。このままでは、市民に対する説明責任を十分に果たしたと言えるのでしょうか。今ここで議会がより良い将来への選択肢を示すことこそ、市民の期待にこたえることになるのではないのでしょうか。それらを取り除くため、明確に整理していく議論をしようではありませんか皆さん。適切な計画を立案し、市民と十分に協議を重ねることが必要です。議員各位の本修正案に対するご理解とご賛同をお願い申し上げ、修正案に対する私の賛成討論といたします。